

子どもの頃

上本 かず

私は小学校時代戦争で授業といったものはほとんどやっていません。農家の田の草取りや、日本で油がとれないので松の切り株など集めて油をとるといって松の切り株を掘って山から背負いだす仕事をやらされ、軍事工場で働かされてほとんど勉強といったものはやりませんでした。

老いて学ばば

死しても朽ちず

私の生まれた所は大桑村です。母は私が十歳のときに亡くなり淋しい悲しい子供時代でした。

父は母の代わりに朝早くから起きて私たちを学校に送るために一生懸命でした。

物も少なく履物に苦労していました。二里半もある山中のため、冬は長靴を履いて雪の多い細い道を歩くにも雪が入らないようにぼろきれを巻きつけ、滝のある坂道はけ

わしくカンジキを履いて歩きました。

坂道にちよろちよろ流れる水が凍り道いっぱいに広がり、一足間違えれば片方が谷底で本当にやっとの思いで歩



手打ちそばに舌つづみ



おみやげが決まり大満足

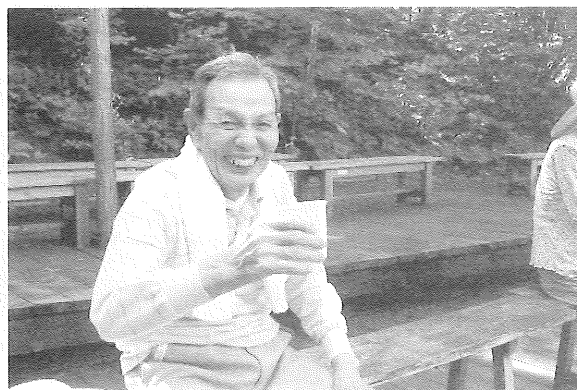
きました。足は冷たく麻に真綿を巻いて下には藁を入れて履きました。

庚申様というところでカンジキやぼろきれをとり、下の部落まで来れば人家も少しは増えて道も良くなり学校にはいつも一時間は遅れて、足はチンチンでもストーブにはあたらず、一日中身体の温まることはありませんでした。

春といっても里の方より雪の消えるのも遅く私たちの家は農家で、春先になると田んぼで苗代を作っており、カエルの鳴き声がにぎやかでした。

家では春の忙しい時になると休みがあり、私は姉や兄達と違い小さかったので弟と二人で毎日桑もぎをやらされました。かいこ休みだから町の人達のようにのんびりしていません。一生懸命に手伝いました。

夏休みは長くて滝水遊びをしました。キュウリなどを持っていく皆で塩をつけてかじりながら泳ぎました。



森林浴は気持ちいい

奥には四軒しか家がなく四年生の夏休みに親戚の家に子守に出されました。遊びたいさかり夏休みといえど皆学校に集まり何をしていたのでしよう。親戚の家のお嫁さんは旦那さんが戦地に行っているでその代わりに朝三時に起きて馬を引いて遠くまで草刈に行っていました。私は子供のおしめを洗ったり風呂の水を汲んだり、朝早くから掃除をさせられました。上手におしめが換えられないし、子供が泣くと泣かさないように